

医療機関と地域母子保健の連携に関する研究

三 浦 昭 子 , 吉 田 久 子 , 佐々木 幸 子

要約：疾病の早期発見と予防のための検診活動、地域医療、及び健康増進のための啓蒙活動としての使命を持って、昭和43年に地域保健活動部が設置された。医師、保健婦、生活指導員、栄養士らのスタッフから構成され、医師、検査、看護、他各部門の協力を得ている。
母子保健事業として院内育児相談、乳幼児検診、予防接種、病院で出生した低体重児の追跡等市町村と連携し、更に月1回の定例会により保健所、市町村保健婦、助産婦の専門職と連携を深めている。

見出し語：地域医療、院内育児相談、乳幼児検診、低体重児の追跡、定例会

研究方法：院内育児相談においては、毎週水曜日の午後、病院保健婦6名も携わり、他に院外活動も行っている。低体重児の退院時連絡は、昭和49年から行い、連絡票により保健所保健婦を通し、地域へのフォローにつなげている。

地域の連携と相互研修を深めるための定例会は、病院内のみの検討会を地域の専門職に呼びかけ、発展的に拡大した。病院で午後5時から1時間半行ない、1回の参集人員は40～50人である。小児科、産婦人科医を中心とした最新情報や育児学、小児保健のかかわり方も含めた症例検討会が主となっている。

結果と考察：本院の診療圏は、人口12万8千人、農家人口6万人、出生率11.3（人口千対）

死亡率7.8である。

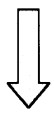
病院保健婦は、低体重児の連絡も含め、地域保健婦と主治医のパイプ役となっている。

最新医学を地域医療に結びつけるため、地域保健婦等に対する再教育の機会が重要である。

検討会の積み重ねが病院と地域の接点としての役割を担い、医師と地域保健婦ら相互理解ができた。勤務終了後の検討会は、集合時間が地域保健婦らにはかなり努力を要している。今は、チーム医療、チーム保健の時代であり、母子保健事業が効率的に運営できるよう継続が望まれる。

今後の健康管理事業の推進で、地域との連携は不可欠である。

秋田県厚生連由利組合総合病院 (Yurikumiai General Hospital)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:疾病の早期発見と予防のための検診活動、地域医療、及び健康増進のための啓蒙活動としての使命を持って、昭和 43 年に地域保健活動部が設置された。医師、保健婦、生活指導員、栄養士らのスタッフから構成され、医師、検査、看護、他各部門の協力を得ている。母子保健事業として院内育児相談、乳幼児検診、予防接種、病院で出生した低体重児の追跡等市町村と連携し、更に月 1 回の定例会により保健所、市町村保健婦、助産婦の専門職と連携を深めている。